2020 年 5 月 13 日

各位

会社名　アイペット損害保険株式会社
代表者　代表取締役社長　　山村　鉄平
（コード番号：7323　東証マザーズ）
問合せ先　取締役常務執行役員　工藤　雄太
（TEL 03-5574-8615）

＜マザーズ＞投資に関する説明会開催状況について

以下のとおり、投資に関する説明会を開催いたしましたので、お知らせいたします。

○開催状況

開催日次　2020 年 5 月 12 日　13:30～14:30
開催方法　機関投資家・アナリスト向け決算説明会をライブ配信
　　視聴者からチャットにて質問を受け付け、回答を実施
開催場所　株式会社フィナンテック
　　東京都中央区日本橋兜町 13-1　兜町偕成ビル別館 4 階
説明会資料　2019 年度決算説明資料、中期経営計画(2020-2022 年度)

【添付資料】
1. 投資説明会において使用した資料

2019年度 決算説明資料

アイペット損害保険株式会社（証券コード：7323）

2020年5月11日

©2020 ipet Insurance CO., Ltd.



決算ハイライト

当社は、日本の会計基準（J-GAAP）の他に、経営管理指標（Non-GAAP）にて経営成績の開示を行っております。

当社は、Non-GAAP指標を重要な指標と考えております。
詳細はAPPENDIXおよび決算短信をご参照ください。

2019年度決算のポイント①（対前期比較）

1. 保険契約の順調な積み上がりにより、トップラインは堅調に伸展

経常収益：+22.7%

14,941百万円 ▶ 18,334百万円

2. 新規契約の好調による費用増加を、吸収しつつ増益を維持

調整後経常利益：+13.9%

929百万円 ▶ 1,058百万円

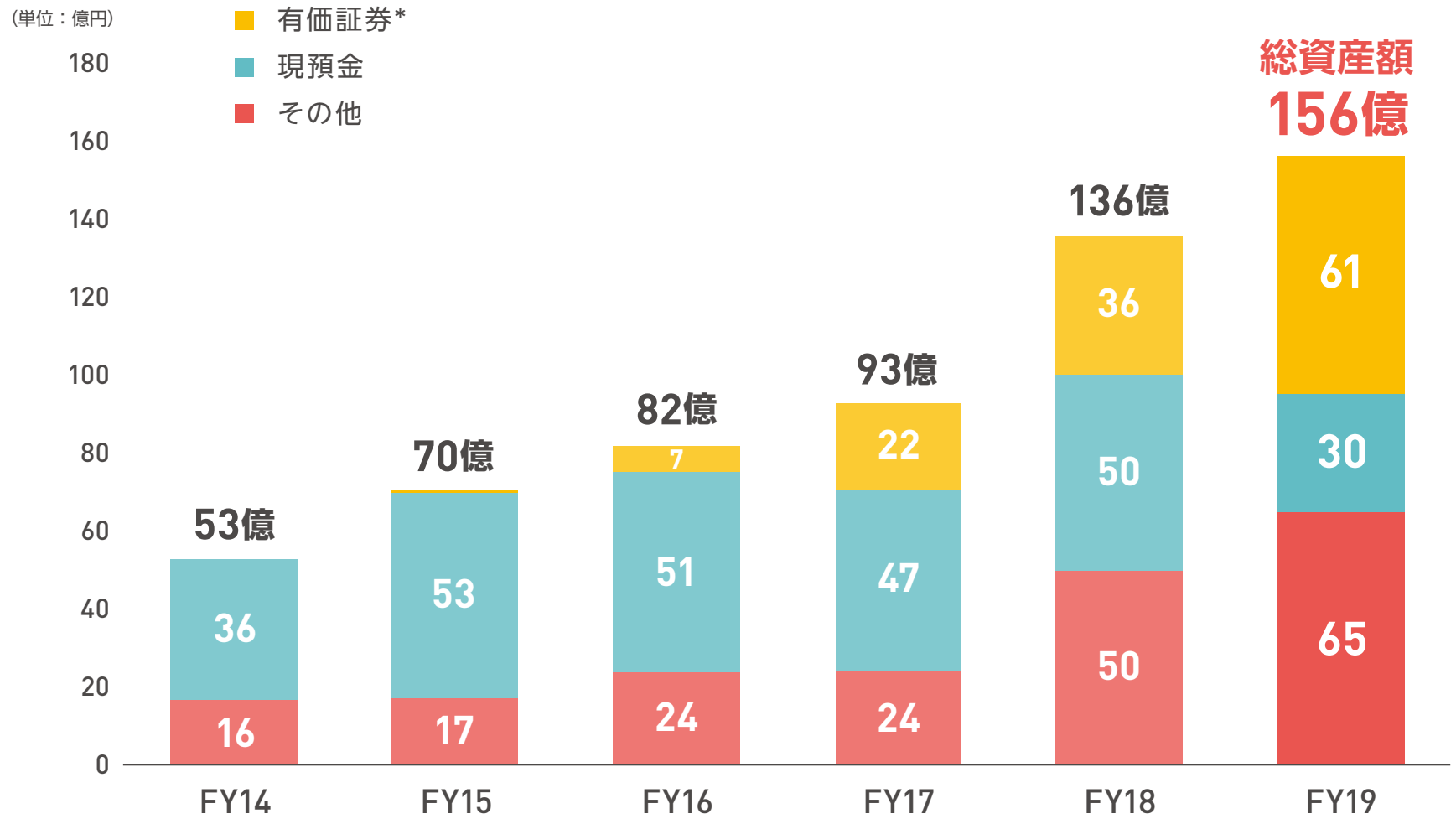
調整後当期純利益(特殊要因*を除く)：+8.7%

668百万円* ▶ 726百万円

* 特殊要因（和解金の受領ならびに税額控除の適用）による利益の押し上げ効果 147 百万円を含む調整後当期純利益は 815 百万円

引き続き、「増収増益」基調をキープ

3. 着実に総資産を積み上げており、資産運用収益の安定化にも寄与



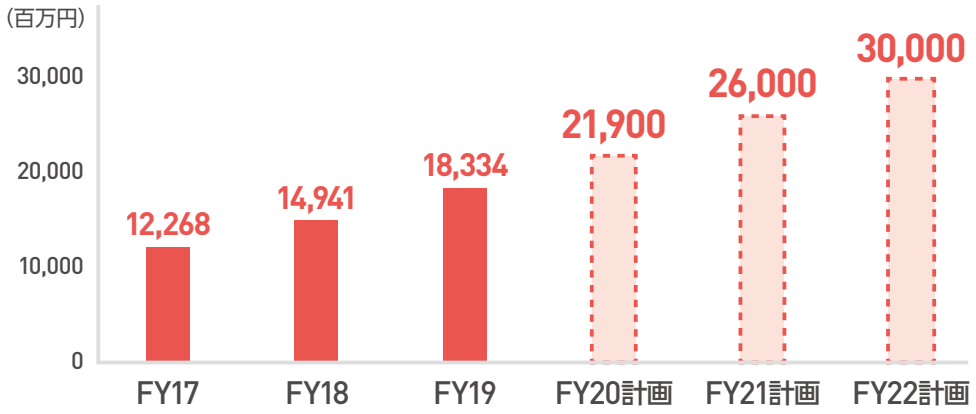
* 有価証券には「金銭の信託」を含んでいる。

経常収益と調整後経常利益の増収・増益を今後も見込む

※本資料と同日に公表している中期経営計画(FY20～FY22)も合わせてご参照ください。
※以下の数値目標は、新型コロナウィルスの影響を一定考慮していますが、長期化した場合には、変更される可能性があります。

経常収益

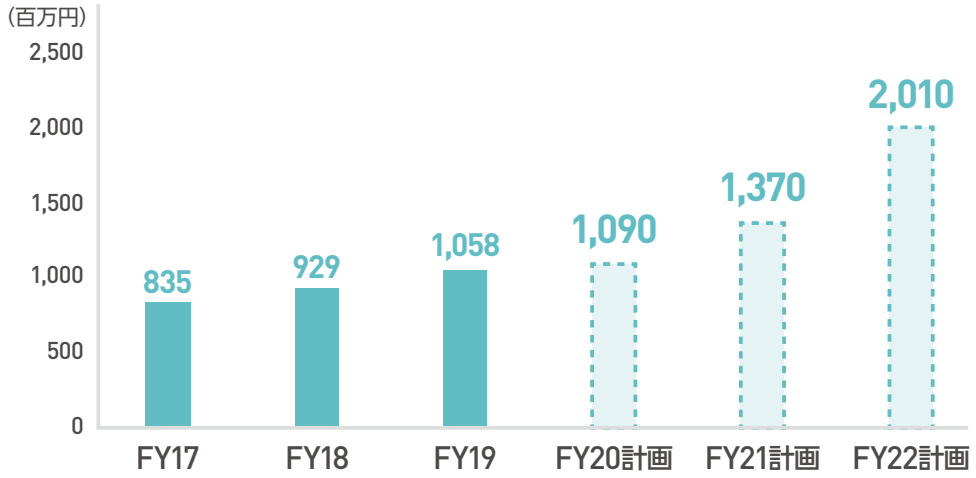
好調な契約獲得と高水準の継続率を背景に、FY20においては219億円、FY22においては300億円を見込む。



調整後経常利益

新規契約獲得のシェアアップに注力しているためトップラインが大きく伸展しており、保険の収益構造上、短期的には新契約費増に伴い利益を一定程度圧迫している。

事業効率化推進により増益を継続する方針から、FY20においては10.9億円、FY22においては20.1億円を見込む。



既存チャネル … 順調に拡大し、新契約が大きく伸展

ペットショップチャネル

- 業界最多15か所の営業拠点で販売強化に注力
- 新たに大手ペットショップと提携

インターネットチャネル

- きめ細やかにCRM施策を運用
- 適切な広告投下により効率良く契約を獲得

新規チャネル … 成長の布石となる業務提携を実現

第一生命チャネル

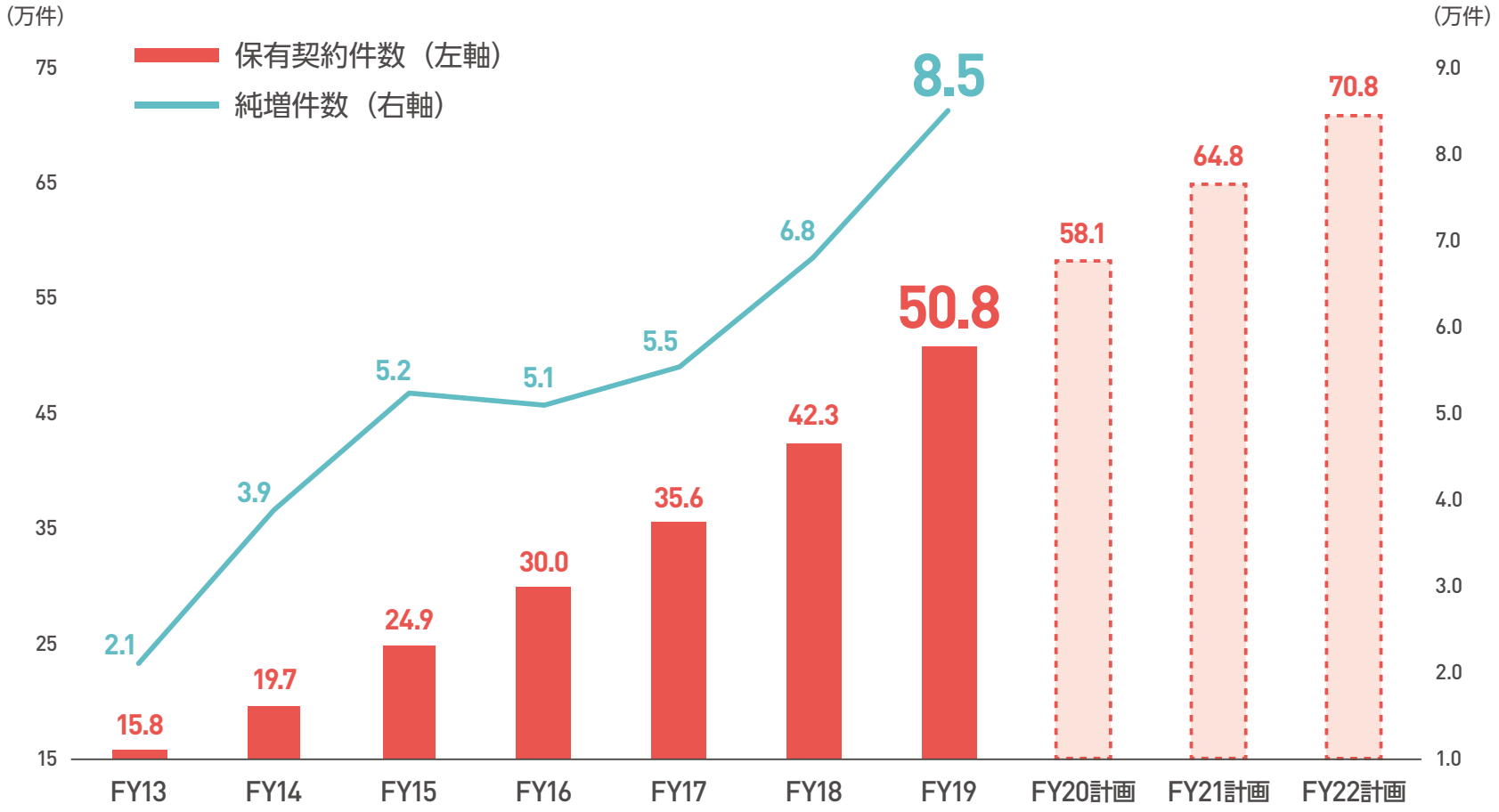
- 第一生命保険グループとの協業が順調にスタート
- 第一生命のWebサイトや営業員による当社商品の販売

保有契約件数と純増件数の推移

FY19も新規契約件数は順調に増加

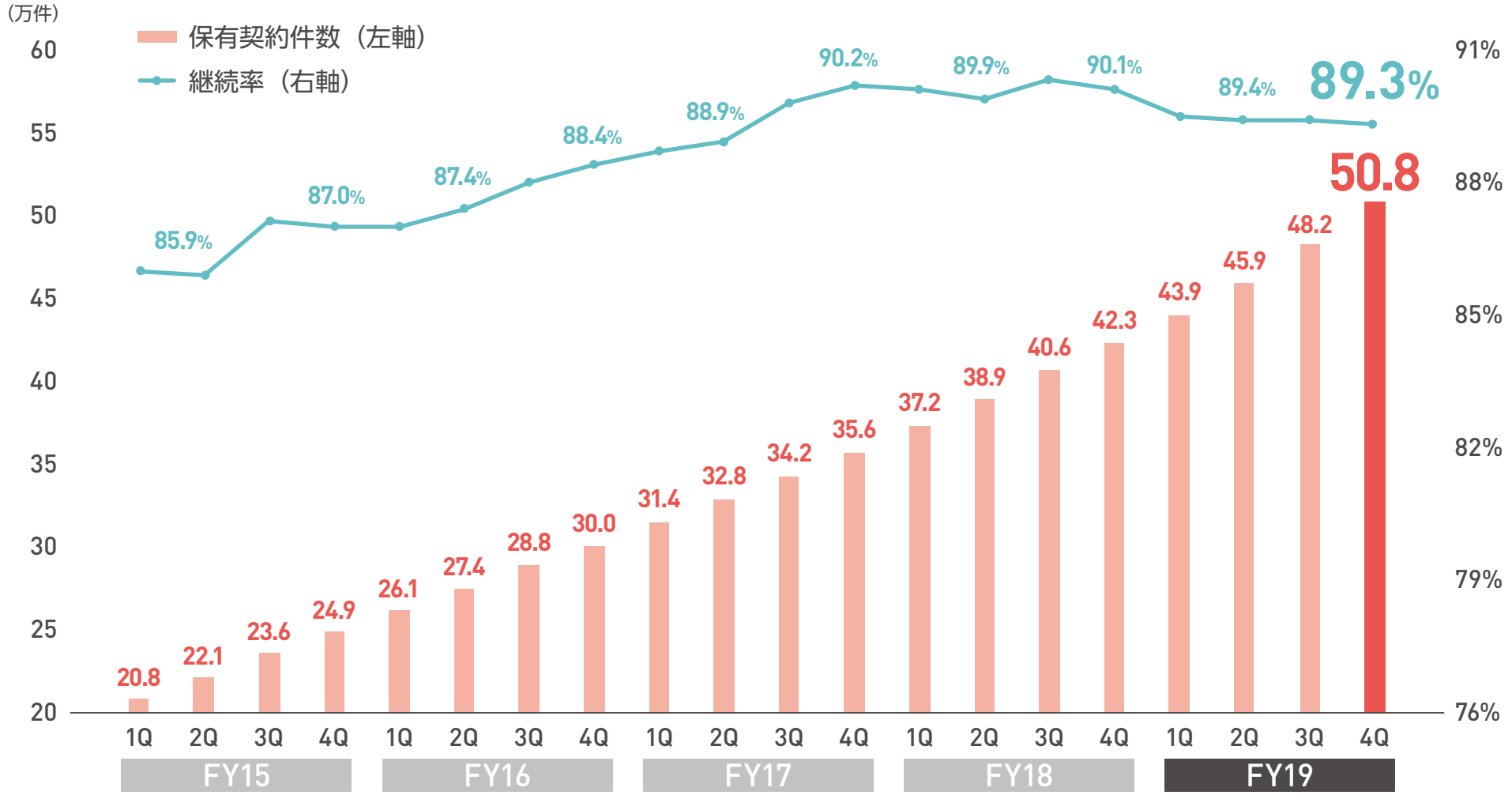
⇒保有契約件数は50万件の大台を突破（2020年3月末時点 508,225件）

⇒純増件数は過去最高の8.5万件となり、ペット保険業界で2期連続No.1*を達成



* 当社推計

好調な新規契約件数とトップクラスの継続率が、純増件数の業界No.1を実現



事業を通じた環境負荷の低減（E）、ペットと共に健康で幸せに生きられる社会への貢献（S）、
ガバナンスの強化による信頼性向上（G）等の取組みを、更なる成長に活かします。

Environment

ビジネスプロセスの変革や環境に配慮した取組み

・デジタライゼーション推進によるペーパーレス化
  - デジタルマーケティング
  - ご契約者さま専用「マイページ」の活用 等
・営業車へのエコカーの活用
・共生環境向上、環境美化への啓蒙活動
  - しつけに関する情報発信、啓蒙活動
  - オリジナルウンチ処理袋の配布

環境負荷の低減へ

Social

ペット保険の普及拡大やペットに関わる社会貢献

・ペット保険による飼い主さまの支援
・持株会社化によるペットに関わる社会的課題への取組み
・青森県との動物愛護に関する連携協定
・各種情報発信、啓蒙活動
・動物福祉に関する活動等への寄付、支援
・従業員の働きがい
  - ペット休暇、ペット忌引き制度等
・若手、女性の登用等

ペットと健康で幸せに暮らせる社会へ

Governance

ガバナンスの強化

・取締役会の監督機能強化、透明性の向上
  - 監査等委員会設置会社への移行
  - 任意の指名・報酬諮問委員会の設置
・保険金不正請求防止への取組み
・コンプライアンス・リスク管理の一層の強化

より信頼されるペット保険会社へ

SDGsの取組み

ペット保険事業の推進、進化により、ペットと人間が共に健康で幸せに生きていけるような
社会を目指し、「ペットと人のSDGs」に取り組んでまいります。

重点目標	具体的な取組み（例）	対応するSDGsの目標
ペットと共に健康に	・ペット保険の提供 ・ペットの病気やケガに関する情報発信、啓蒙活動 ・「うちの子 HAPPY マラソン」への特別協賛	
ペットと共に安全に	・ペットの防災に関する情報発信、啓蒙活動 ・災害救助犬の育成支援	
ペットを飼っている人も 飼っていない人も幸せに	・しつけに関する情報発信、啓蒙活動 ・マナー啓蒙活動の実施	
全ての命に愛を	・青森県との動物愛護に関する連携協定 ・かるた、カレンダーの写真投稿企画での寄付活動 ・「ペットのおうち*」への「ノミ・マダニ駆除薬」支援 ・終生飼養に関する情報発信、啓蒙活動	
保険会社としての信頼性の 更なる向上に向けて	・お客さま主義の推進 ・ガバナンス強化 ・保険金不正請求防止に向けた取組み ・コンプライアンス・リスク管理の更なる強化 ・デジタライゼーションの推進によるペーパーレス化 ・営業車にエコカーを活用	
「うちの子」である 従業員の健やかな生活と 成長に向けて	・ペット休暇、ペット忌引きの導入 ・女性の活躍推進 ・ワークライフバランスの促進 ・ダイバーシティの推進 ・防災対策強化 ・オンラインでの従業員教育	

＊株式会社 Easy Communications が運営する国内最大級のペット里親募集サイト



業績の推移について

収益指標 ※未経過保険料方式（Non-GAAP）

（単位：百万円）	FY18	FY19	前期比
経常収益	14,941	18,334	+22.7%
調整後経常利益	929	1,058	+13.9%
調整後当期純利益	815*	726	▲11.0%

* FY18 の特殊要因（和解金の受領ならびに税額控除の適用）による利益押し上げ効果 +147 百万円を含む

コンバインド・レシオ

正味保険料ベース …… 88.1%（損害率44.5%、事業費率43.6%）

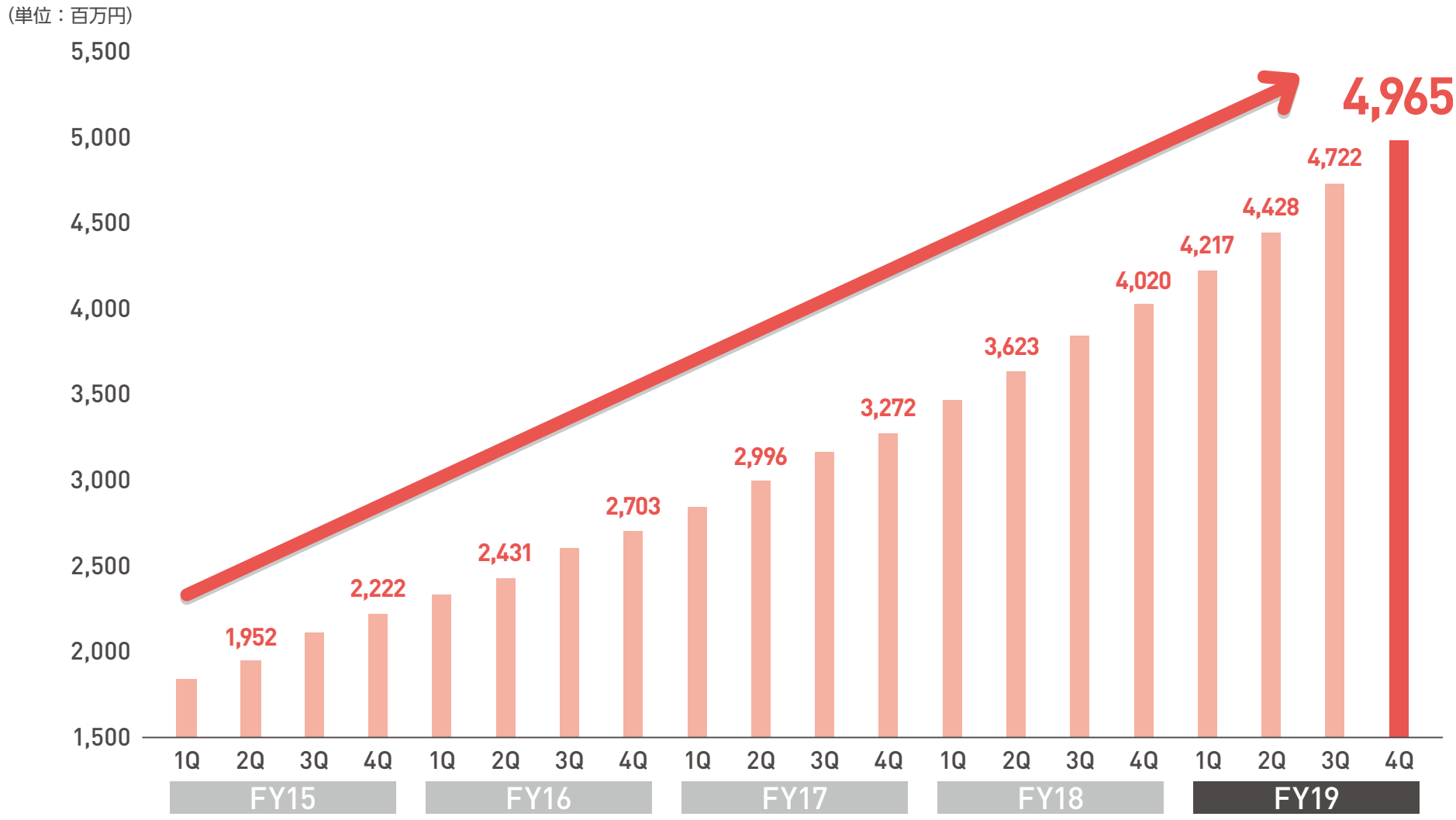
既経過保険料ベース …… 94.5%（損害率48.7%、事業費率45.8%）

安全性指標

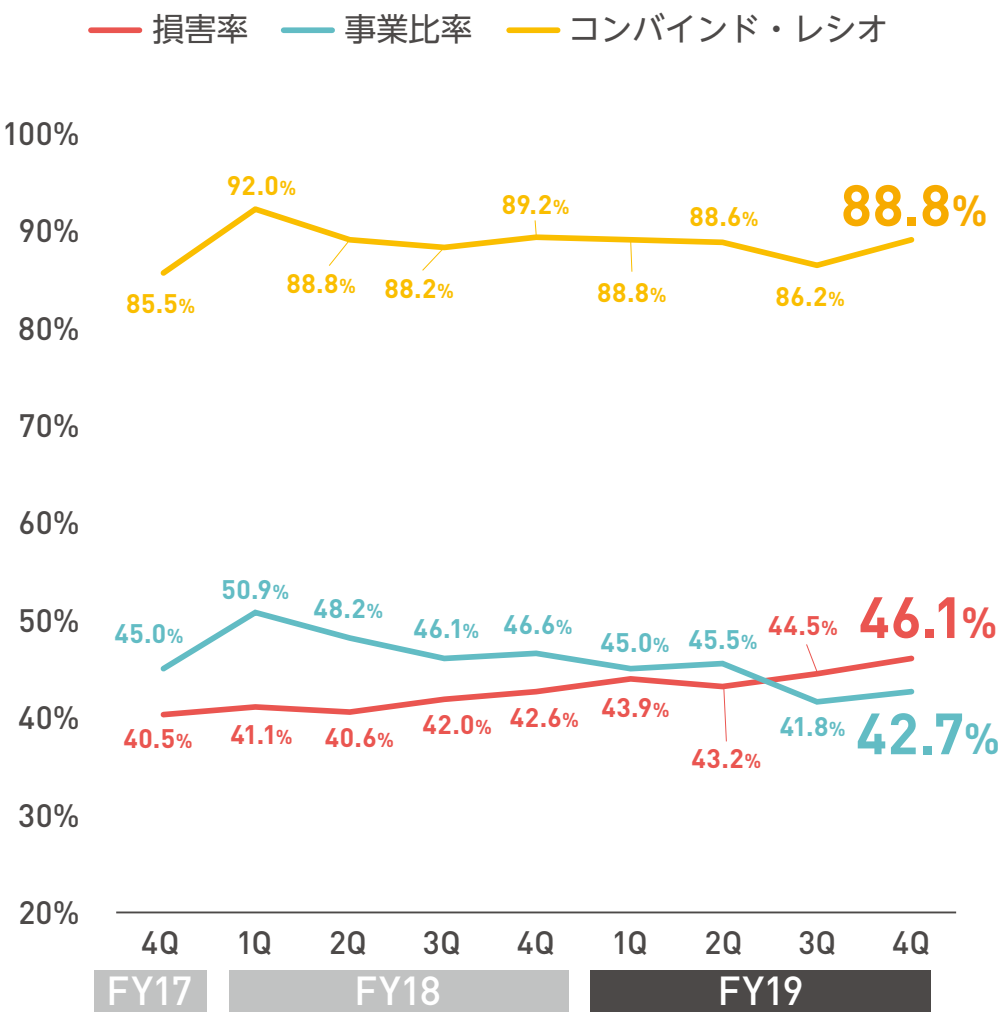
ソルベンシー・マージン比率 …… 347.3%（前年度末比 ▲34.1%）

（四半期毎）経常収益の推移

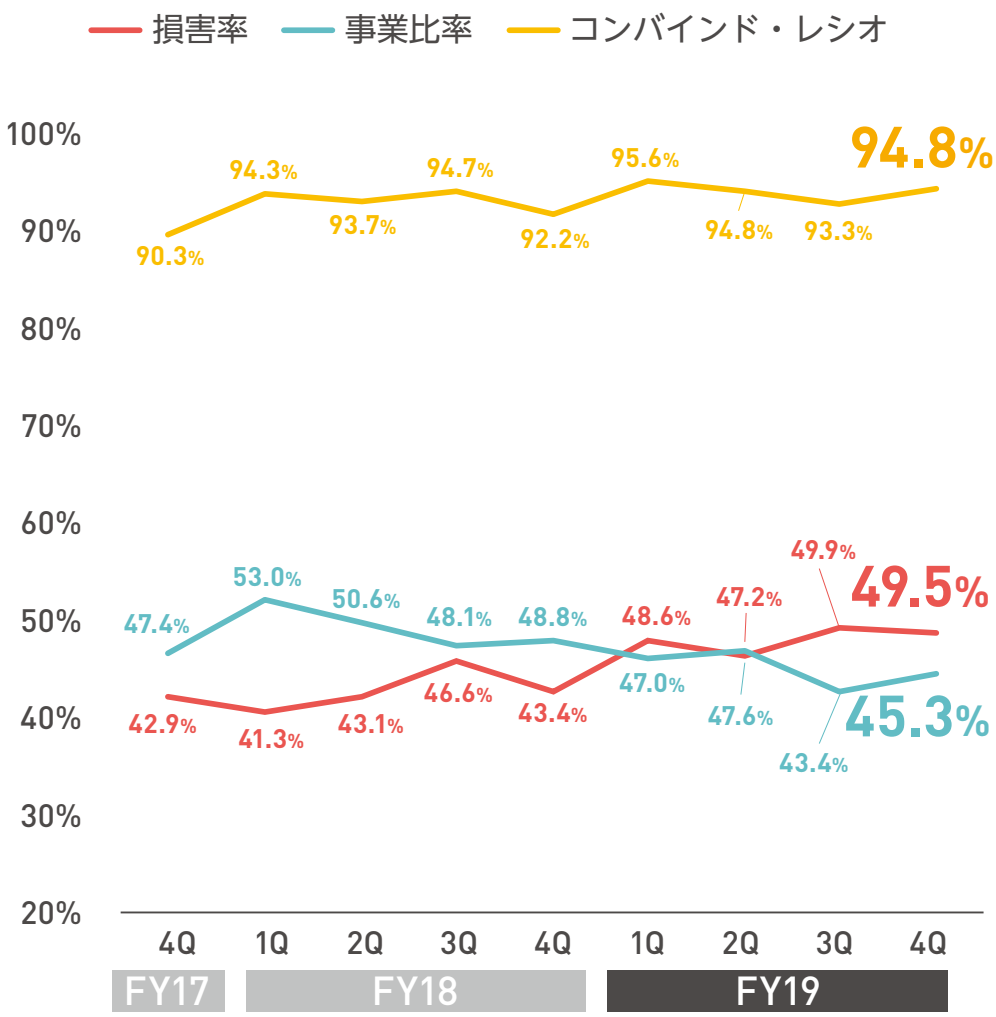
事業規模の高成長は維持しつつも、
高水準の増収率を達成



正味ベース



既経過ベース



Non-GAAPベースの業績



要約損益計算書（Non-GAAP：未経過保険料方式）

（単位：百万円）	FY18	FY19	前期比
経常収益	14,941	18,334	+22.7%
保険引受収益	14,831	18,115	+22.1%
資産運用収益	60	173	+187.2%
その他経常収益	49	45	▲ 8.2%
経常費用	14,487	17,856	+23.3%
保険引受費用	9,243	12,172	+31.7%
資産運用費用	15	55	+248.2%
営業費及び一般管理費	5,224	5,579	+6.8%
その他経常費用	4	49	+979.2%
経常利益	453	477	+5.3%
特別利益	170	—	—
特別損失	3	6	+72.8%
税引前当期純利益	619	471	▲ 24.0%
法人税等	▲ 343	162	—
当期純利益	963	308	▲ 68.0%

主な勘定科目の増減理由

保有契約件数の拡大に伴い順調に増加

- 利息配当金収入　+64百万円
- 有価証券売却益　+40百万円
- 金銭の信託運用益　＋ 7百万円

- 正味支払保険金
  7,443百万円（前期比+28.6%）
- 諸手数料及び集金費
  2,320百万円（前期比+39.9%）
- 責任準備金繰入額
  1,458百万円（前期比+28.6%）

前期は、システム開発に関して委託先から
受領した和解金 170 百万円を計上

資産運用の拡大に伴い、
価格変動準備金繰入が増加

前期は税効果会計の区分変更により、
異常危険準備金に対する繰延税金資産を計上

J-GAAPベースの業績



要約損益計算書（J-GAAP:初年度収支残方式）

（単位：百万円）	FY18	FY19	前期比
経常収益	14,941	18,334	+22.7%
保険引受収益	14,831	18,115	+22.1%
資産運用収益	60	173	+187.2%
その他経常収益	49	45	▲ 8.2%
経常費用	14,643	17,920	+22.4%
保険引受費用	9,398	12,237	+30.2%
資産運用費用	15	55	+248.2%
営業費及び一般管理費	5,224	5,579	+6.8%
その他経常費用	4	49	+979.2%
経常利益	297	413	+38.7%
特別利益	170	—	—
特別損失	3	6	+72.8%
税引前当期純利益	464	406	▲ 12.4%
法人税等	▲ 387	144	—
当期純利益	851	261	▲ 69.2%

要約貸借対照表（J-GAAP:初年度収支残方式）

（単位：百万円）	FY18	FY19	前期比
資産合計	13,574	15,599	+14.9%
現金及び預貯金	5,035	3,050	▲39.4%
有価証券等	3,686	6,203	+68.3%
繰延税金資産	834	1,017	+21.9%
その他資産	4,017	5,327	+32.6%
負債合計	8,237	10,018	+21.6%
保険契約準備金	7,019	8,869	+26.4%
うち支払備金	963	1,290	+33.9%
うち責任準備金	6,056	7,579	+25.1%
その他負債	1,217	1,148	▲5.7%
純資産	5,336	5,580	+4.6%
資本金	4,097	4,118	+0.5%

主な勘定科目の増減理由

余剰資金を資産運用に回しているため減少

- 金銭の信託
  1,013百万円 (+1,013百万円)
- 有価証券
  5,067百万円 (+1,500百万円)

- ソフトウェア仮勘定
  1,982百万円(+730百万円)
- 未収保険料・未収金
  2,189百万円(+394百万円)

- 初年度収支残
  4,775百万円(+942百万円)
- 異常危険準備金
  2,803百万円(+580百万円)

- 未払法人税等の減少
  ▲183百万円
- 借入金の増加
  +125百万円



APPENDIX

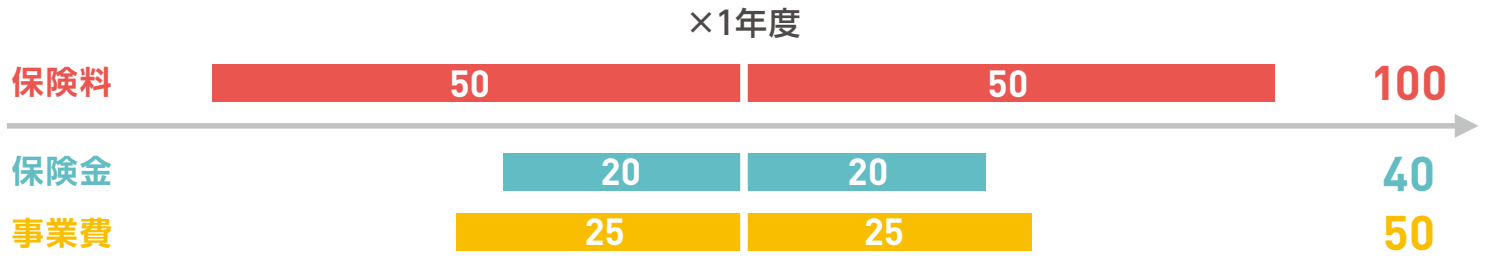
初年度収支残方式と未経過保険料方式について

・損害保険会社は、普通責任準備金として未経過保険料残高と初年度収支残高のいずれか大きい方を負債計上する必要がある（保険業法施行規則第７０条１項１号）

・当社は、初年度収支残高が未経過保険料残高を上回っているため、制度会計上初年度収支残方式によるが、経営管理上は、発生主義に即した未経過保険料方式を使用

初年度収支残方式と未経過保険料方式

［前提］●期中に一時払で100の入金、うち×１年度末での未経過保険料50　●保険金、事業費はそれぞれ下図の通り



初年度収支残方式

	×1年度	×2年度
保険料	100	0
保険金	20	20
事業費	25	25
差引	55	▲ 45
準備金	55	▲ 55
利益	0	10

初年度の利益は０

未経過保険料方式

	×1年度	×2年度
保険料	100	0
保険金	20	20
事業費	25	25
差引	55	▲ 45
準備金	50	▲ 50
利益	5	5

発生主義による利益

Non-GAAPによる利益表示について

(単位：百万円)

		FY18	FY19	FY20予想
Non-GAAP	A) 調整後経常利益 (=B+C)	929	1,058	1,090
	B) 経常利益	453	477	400
	C) 異常危険準備金影響額	475	580	690

・当社は、経営者が意思決定する際に使用する社内指標（Non-GAAP：未経過保険料方式）と、日本基準（J-GAAP：初年度収支残方式）に基づく指標の双方で経営成績を開示*

・当社は、調整後経常利益（＝未経過保険料方式の経常利益±異常危険準備金**影響額）を経営実態を適切に表す経営管理用の利益指標として使用

・異常危険準備金は、異常災害による損害の填補に備えるため、事業年度ごとに収入保険料に3.2％を乗じた金額を責任準備金として負債計上する必要がある**
（保険業法施行規則第70条1項2号）

・今後も、業績予想は「Non-GAAP：未経過保険料方式」のみで開示

* 上場企業のうち、初年度収支残方式に基づく損害保険会社は当社以外は存在していない
** 当社の損害率が大蔵省告示第 232 号第 2 条の別表で記載されている基準損害率 50%を下回るため

将来見通しに関する注意事項

・本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」
(forward-looking statements) を含みます。

・これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、
実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

・それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった
一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。

・今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合でも、当社は、本発表に含まれる
「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。

本資料および当社IRに関するお問合せ先

アイペット損害保険㈱　財務経理部
E-mail：IR@ipet-ins.com


ipet

中期経営計画
（2020-2022年度）

ipet アイペット損害保険株式会社（証券コード：7323）

2020年5月11日

©2020 ipet Insurance CO., Ltd.

経営理念

ペットとの共生環境の向上とペット産業の健全な発展を促し、
潤いのある豊かな社会を創る。

経営ビジョン

より安心なペットとの生活を共に創る。

行動指針

お客さまに対する基本姿勢

1. お客さまの立場で感じ、考え、動く
2. お客さまの安心と満足を追求する
3. お客さまに感動をお届けする

社会における基本姿勢

1. 社会ルールを遵守し、誠実に行動する
2. 反社会的勢力には毅然と対応する
3.「良き企業市民」として社会に貢献する

社員としての基本姿勢

1. 多様性のあるチームで成果を出す
2. 成長への弛まぬ努力をする
3. 自主性を重んじ、自発的に動き、自走する
4. 挑戦を称賛する

目　次

前期までの重点方針の進捗と見通しについて …… P. 04

ペット保険市場の全体感 …… P. 05

当社の状況 …… P. 06

重点方針（2020 年度更新） …… P. 07

経営数値目標 …… P. 08

　経営数値目標（保険事業）

本中期経営計画における重点施策 …… P. 10

　1．お客さまに選ばれる会社であり続ける …… P. 11

　2．持株会社へ移行し、事業領域を拡大する …… P. 13

　3．デジタライゼーションを推進する …… P. 16

【ご参考】ESG の取組み …… P. 18

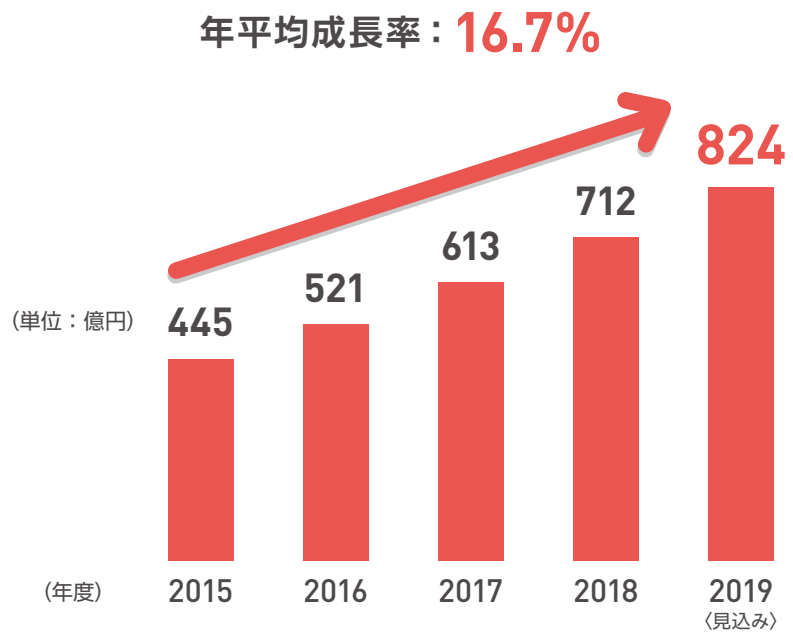
【ご参考】SDGs の取組み …… P. 19

前期までの重点方針の進捗と見通しについて

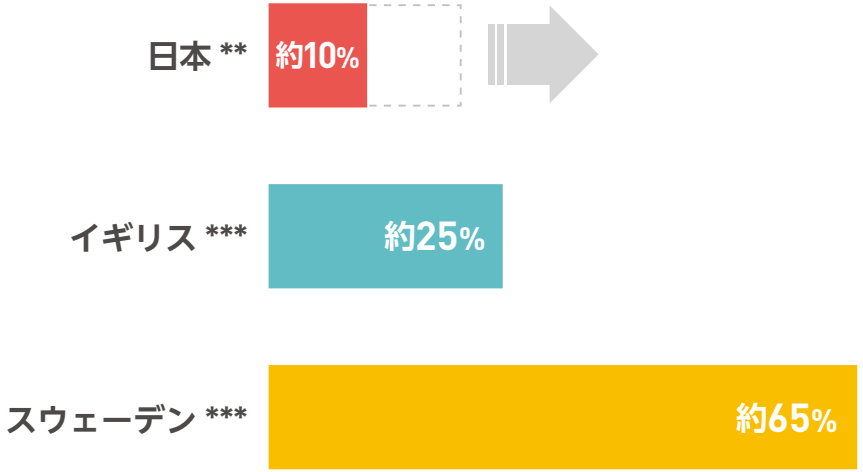
重点方針 （2018年7月31日発表の中期経営計画より）	進捗/見通し
1. 保険事業の経常収益を5年で2倍にする 2023年3月期の経常収益を、2018年3月期の2倍にする	**目標より1年早く2022年3月期に達成する見込み** ・大手ペットショップチェーンとの提携等により、ペットショップチャネルが好調 ・2年連続で年間保有純増件数は年間で業界No.1見込（当社調べ）
2. 持株会社へ移行し、事業領域を拡大する	**2020年10月持株会社設立に向けて準備中**
3. デジタライゼーションを推進する	**・RPAを積極的に活用し、年間25,000時間相当の大幅な業務効率化に貢献** **・基幹システムについては2020年度中にシステムのバージョンアップを実施予定**

国内のペット保険市場は毎年2桁成長を遂げているが、成長余地は未だ大きい

ペット保険市場規模の推移 *



ペット保険加入率 諸外国との比較

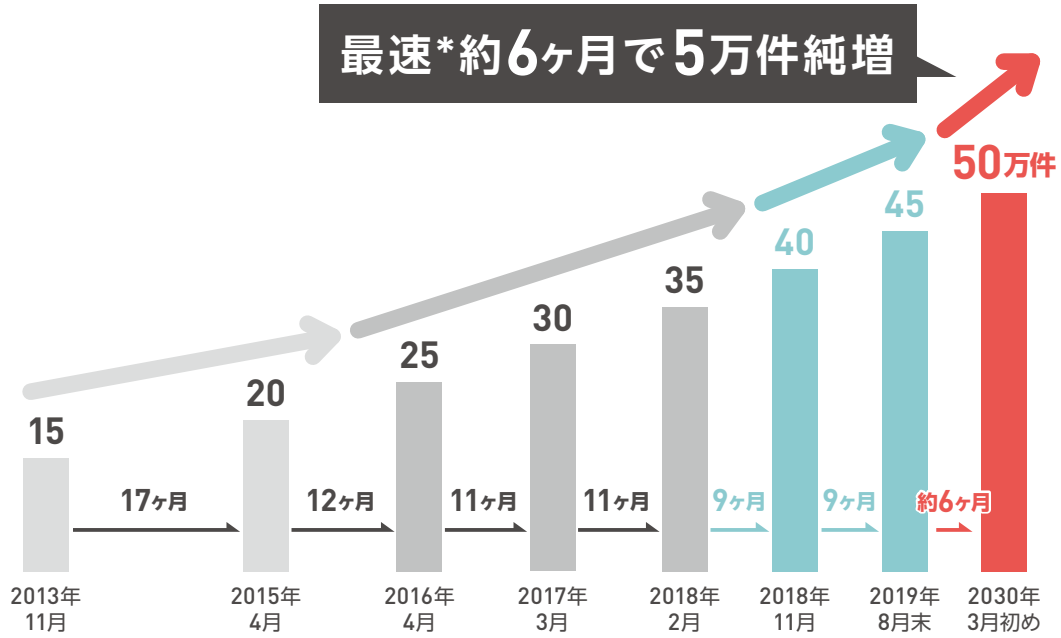


* 2020 年ペットビジネスマーケティング総覧（㈱矢野経済研究所）
** 2019 年時点。令和元年 全国犬猫飼育実態調査（一般社団法人ペットフード協会）および 2020 年ペット関連市場マーケティング総覧（㈱富士経済）を基に当社で算出
*** 2017 年時点。Statista, BBC, Svenska Dagbladet, Timetric「Pet Insurance in the UK」

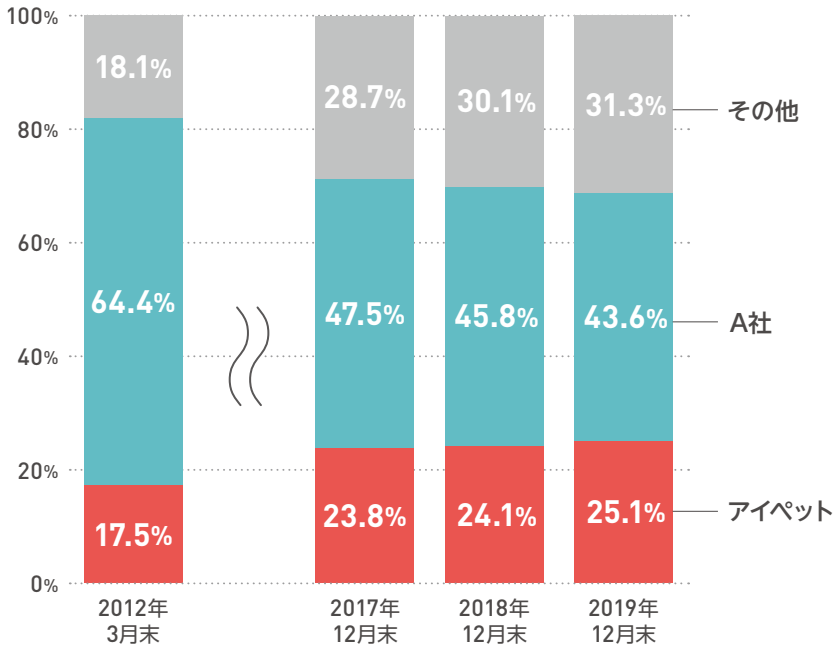
当社保有契約件数は市場平均を超えて増加し、シェアが拡大
今後も順調に伸びる見通し

当社の保有契約件数推移

（単位：万件）



各社の保有契約件数シェア推移 **



* 当社創業来

** 2017 年 12 月末以降は、㈱富士経済「2019、2020 ペット関連市場マーケティング総覧」
2012 年 3 月末は当社調べ

1. お客さまに選ばれる会社であり続ける

2. 持株会社へ移行し、事業領域を拡大する

3. デジタライゼーションを推進する

経営数値目標



経営数値目標（保険事業）

2020年3月期は、新規契約獲得によるシェアアップに注力した結果、トップラインが大きく伸展した一方、保険の収益構造上、短期的には利益を圧迫している。2023年3月期以降の大きな利益成長を見込む

※以下の数値目標は、新型コロナウィルスの影響を一定考慮していますが、長期化した場合には、変更される可能性があります。

本日（2020.5.11）開示

（単位：百万円）	18/3期	19/3期	20/3期	21/3期	22/3期	23/3期
経常収益	**12,268**	14,941	18,334	21,900	**26,000**	30,000
調整後経常利益	835	929	1,058	1,090	1,370	2,010
調整後当期純利益	309	815	726	750	950	1,410
保有契約件数	355,513	423,352	508,225	581,000	648,000	708,000

経常収益は1年前倒しで目標*に到達見込み

前回（2019.5.9）開示

（単位：百万円）	18/3期	19/3期	20/3期	21/3期	22/3期
経常利益	12,268	14,941	17,700	20,500	23,500
調整後経常利益	835	929	1,043	1,201	1,546
調整後当期純利益	309	815	735	827	1,074
保有契約件数	355,513	423,352	485,000	545,000	600,000

＊2023年3月期の経常収益を、2018年3月期の2倍にする



本中期経営計画における重点施策

お客さまとの各々の接点において、お客さまからの信頼を得続けるための取組みを行い、
保有契約件数を増やしていく。

1. ペットショップを中心とした リアルチャネルの強化

•代理店コンサルティング営業の取組み強化

- 生体・保険販売統合システムの機能向上
- ショップオーナー支援の強化

•営業接点の強化

- 営業拠点の拡充（右図参照）



2. チャネルを複線化しつつ、テーマ別の攻略を図る

- **ネットチャネルのNo.1を目指し続ける**
  - 引き続き注力し、先行しているマーケットの更なる発展を目指す
  - 犬と比べてのびしろが大きい「猫」の戦略を強化する
- **第一生命HDとの協業による新規契約獲得件数の伸展**

3. 商品とサービスの拡充

- **お客さまニーズに合った商品の展開・開発**（右図参照）
- **対応動物病院による窓口精算サービスの更なる拡充**
  - 2019年度に対応動物病院は5,000施設を突破
- **サービスの更なる拡充**
  - うちの子HAPPY PROJECT/クラブアイペット/獣医師コンテンツ
  - リアルイベント/ウェブコンテンツの継続発展による啓蒙

窓口精算対応商品

うちの子

補償割合

70% / 50%

- 通院、入院、手術まで幅広く補償
- 70%プラン、50%プランの2種類のプランから選択可能

ペットショップ代理店限定商品

窓口精算対応商品*1

うちの子プラス

補償割合

【1か月目】 100% ▶ 【2～12か月目】 70% / 50%

- 通院、入院、手術まで幅広く補償
- 体調を崩しがちな飼い始め1か月以内に発症した傷病は診療費の100%を補償
- 2か月目からは70%プラン、50%プランの2種類のプランから選択可能

*1 窓口精算は加入後2か月目からとなります。

うちの子Light

補償割合

90%

- 高額になりがちな手術補償に特化
- お手頃な保険料で手術費用の90%を補償（手術1回あたり最高50万円、年間2回まで）
- インターネット経由での加入は10%割引（インターネット契約割引）

ペットショップ代理店限定商品

窓口精算対応商品

うちの子キュート

補償割合

70% / 50% / 30%

- 当社指定のエキゾチックアニマル*2を対象とした商品
- 通院、入院、手術まで幅広く補償
- 70%プラン、50%プラン、30%プランの3種類のプランから選択可能

*2 うさぎ、フェレット、鳥、ハリネズミ、モモンガ、リス、ハムスター、ネズミ、モルモット、トカゲ、カメなど

［ 日本におけるペットと人の課題 ］

日本のペットオーナーは、悩んでいる。



出所：一般社団法人 ペットフード協会「平成 30 年（2018 年）全国犬猫飼育実態調査 結果」／アイペット損害保険株式会社「2019 年ペットオーナーへのフォーカスグループインタビュー調査」

ペットのあらゆる課題を解決できれば
日本のペットと人は、もっといっしょにいられるはず。

保険という“社会インフラ”を生業とする企業として、次のステージへ

ペットと人のあらゆる悩みを解決するのは、愛。

ペットにまつわる社会的課題

- ペット医療環境の向上
- ペットと人の共生環境の整備
- ペット殺処分ゼロ化
- 高齢ペット介護環境の整備 など

人にまつわる社会的課題

- あらゆるライフステージにおける QOL（Quality of Life）の向上 など
- 少子高齢化に伴う健康寿命の延伸
- フレイル対策 など

アイペットは社会インフラとして、
ペットと人にまつわる社会的課題に真っ向から取り組む

ペットと人が共に暮らし続けるための、社会インフラサービスの構築を目指す

ステークホルダーの皆様と共に社会的課題を解決していく

持株会社体制へ移行し、ペットオーナーの悩み、ひいては社会的課題を解決するために事業領域を拡大する。

2020年度下期以降順次、持株会社体制への移行を目指す

現時点の持株会社体制案

2020年9月まで

アイペット損害保険 株式会社

2020年10月から（目標）

アイペットホールディングス 株式会社

- アイペット損害保険 株式会社

【持株会社】
2020年10月設立を目指す（当局の認可が前提）

【アイペット損害保険株式会社】
ペット保険事業会社（現行のまま）

2021年1月から（目標）

アイペットホールディングス 株式会社

- アイペット損害保険 株式会社
- **○○ 株式会社**
- **○○ 株式会社**

【ペット関連の事業を行う会社】
2021年1月複数設立を目指す（当局の承認が前提）

ペット保険会社としての潜在能力を発揮し、ペットと人にまつわる社会的課題の解決につながる“社会インフラ”としての、持続可能な競争力の構築を目指す。

ITの活用により各種ビジネスプロセスの変革を進める。

1. お客さま満足度の向上

•マイページの機能拡充による利便性向上

- 各種お手続きのオンライン化
  ▸▸▸ 各種契約情報変更／お手続状況の可視化 など
- 保険金請求のオンライン化

•AIチャットボットの導入による、問合せ回答の迅速化

•Web証券／保険証・約款の導入

ご契約者さま専用マイページ

マイページは、当社が運営するご契約者さま専用ページです。
マイページへご登録いただくと、パソコン、スマートフォンおよびタブレットより以下の内容をご確認、お手続きいただけます。

・ご契約内容の照会や変更
・ペット写真の変更（保険証用）
・保険金請求に関する各種お手続き状況の確認や書類のお取寄せ 等

また、当社獣医師より健康や飼い始めのしつけに関しての記事をお届けしています。



各種お手続きに関するメール通知

以下のお手続きの状況をメールにてご契約者さまへ通知しています。

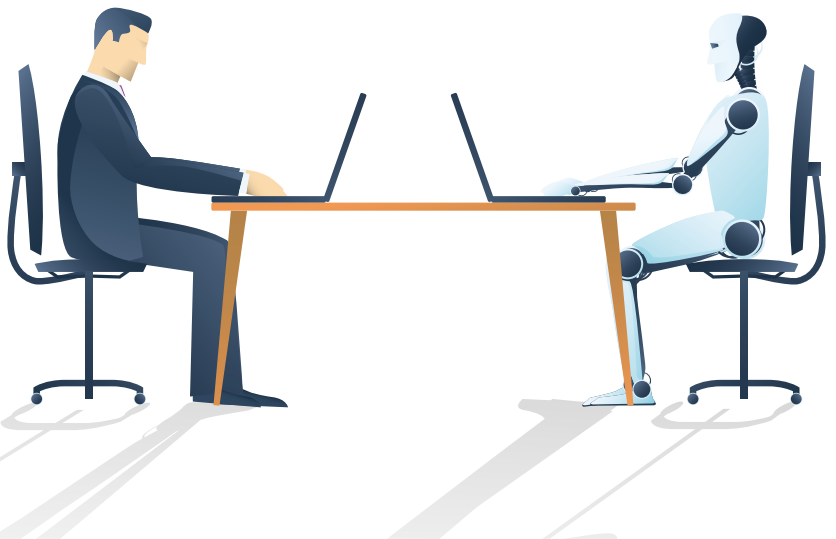
・申込み受付完了通知
・引受審査の完了通知
・窓口精算利用開始通知
・保険金請求の受付完了通知
・保険金支払い完了通知（郵送でも実施）
・保険証券 / 継続証の発送完了通知

2．CRM施策の進化

- **1to1マーケティングの更なる推進**
  - ペットオーナーＤＢの活用による、各種お客さま接点の頻度、ホスピタリティ向上
    ▸▸▸ 電子メール、LINE、SMS、コール、他

3．基幹システムのインフラとアプリケーションの更改

- **アプリケーションは、インフラ更改完了後に段階的に実施**
- **保険金のオンライン請求の拡大、データの電子化を推進**
- **OCR、AI自動査定の導入検討**
- **RPAの継続的活用**
  （2019年度に25,000時間/年のロボット化を達成）



【ご参考】ESGの取組み

事業を通じた環境負荷の低減（E）、ペットと共に健康で幸せに生きられる社会への貢献（S）、
ガバナンスの強化による信頼性向上（G）等の取組みを、更なる成長に活かします。

Environment

ビジネスプロセスの変革や環境に配慮した取組み

・デジタライゼーション推進によるペーパーレス化
  - デジタルマーケティング
  - ご契約者さま専用「マイページ」の活用 等
・営業車へのエコカーの活用
・共生環境向上、環境美化への啓蒙活動
  - しつけに関する情報発信、啓蒙活動
  - オリジナルウンチ処理袋の配布

環境負荷の低減へ

Social

ペット保険の普及拡大やペットに関わる社会貢献

・ペット保険による飼い主さまの支援
・持株会社化によるペットに関わる社会的課題への取組み
・青森県との動物愛護に関する連携協定
・各種情報発信、啓蒙活動
・動物福祉に関する活動等への寄付、支援
・従業員の働きがい
  - ペット休暇、ペット忌引き制度等
・若手、女性の登用等

ペットと健康で幸せに暮らせる社会へ

Governance

ガバナンスの強化

・取締役会の監督機能強化、透明性の向上
  - 監査等委員会設置会社への移行
  - 任意の指名・報酬諮問委員会の設置
・保険金不正請求防止への取組み
・コンプライアンス・リスク管理の一層の強化

より信頼されるペット保険会社へ

【ご参考】SDGsの取組み

ペット保険事業の推進、進化により、ペットと人間が共に健康で幸せに生きていけるような
社会を目指し、「ペットと人のSDGs」に取り組んでまいります。

重点目標	具体的な取組み（例）	対応するSDGsの目標
ペットと共に健康に	・ペット保険の提供 ・ペットの病気やケガに関する情報発信、啓蒙活動 ・「うちの子 HAPPY マラソン」への特別協賛	
ペットと共に安全に	・ペットの防災に関する情報発信、啓蒙活動 ・災害救助犬の育成支援	
ペットを飼っている人も 飼っていない人も幸せに	・しつけに関する情報発信、啓蒙活動 ・マナー啓蒙活動の実施	
全ての命に愛を	・青森県との動物愛護に関する連携協定 ・かるた、カレンダーの写真投稿企画での寄付活動 ・「ペットのおうち*」への「ノミ・マダニ駆除薬」支援 ・終生飼養に関する情報発信、啓蒙活動	
保険会社としての信頼性の 更なる向上に向けて	・お客さま主義の推進 ・ガバナンス強化 ・保険金不正請求防止に向けた取組み ・コンプライアンス・リスク管理の更なる強化 ・デジタライゼーションの推進によるペーパーレス化 ・営業車にエコカーを活用	
「うちの子」である 従業員の健やかな生活と 成長に向けて	・ペット休暇、ペット忌引きの導入 ・女性の活躍推進 ・ワークライフバランスの促進 ・ダイバーシティの推進 ・防災対策強化 ・オンラインでの従業員教育	

＊株式会社 Easy Communications が運営する国内最大級のペット里親募集サイト

本資料について

本資料に掲載している情報の一部には、将来の業績に関する記述が含まれています。

こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。

将来の業績は環境の変化などにより、実際の結果と異なる可能性があることにご留意ください。


ipet